

STEP ①

感染想定を作成する

- コロナ患者数 = $353人 \times 都道府県人口 \div 100,000$ ※第7波で最も人口当たりの新規陽性者数が多かった沖縄県の実績値より算出
- インフル患者数 = NDB における都道府県別のピーク週のインフル患者数 $\div 6$
 NDB における都道府県別の2013年7月～2020年8月までの週単位の最大インフル患者数より算出。休診日を考慮し $\div 6$

STEP ②

コロナ患者、インフル患者を年齢別に分ける

- コロナ患者の年齢構成比：小学生(12歳)以下 17%、中学生(13歳)～64歳 71%、65歳以上 13%
- インフル患者の年齢構成比：小学生(12歳)以下 36%、中学生(13歳)～64歳 52%、65歳以上 11%
- 中学生(13歳)～64歳のうち、基礎疾患を有する者の割合：中学生(13歳)～64歳の患者数(コロナ+インフル) $\times 5\%$



STEP ③

外来受診者とセルフチェック実施者に分ける

<例1 セルフチェック実施者が95%の場合；中学生(13歳)～64歳のうち外来受診者は基礎疾患を有する者(5%)のみ >

- 外来受診者：小学生(12歳)以下 + 65歳以上 + 中学生(13歳)～64歳のうち、基礎疾患を有する者
- セルフチェック実施者：中学生(13歳)～64歳の患者数 $\times 95\%$

<例2 セルフチェック実施者が20%の場合；中学生(13歳)～64歳のうち外来受診者は80% >

- 外来受診者：小学生(12歳)以下 + 65歳以上 + 中学生(13歳)～64歳の患者数 $\times 80\%$
- セルフチェック実施者：中学生(13歳)～64歳の患者数 $\times 20\%$



STEP ④

セルフチェック実施者のうち、外来を受診する可能性がある者を算出する

- コロナ検査陽性：セルフチェック実施者のうちコロナ患者 $\times 70\%$ ※コロナ検査の感度を70%と仮定
- コロナ検査陰性(外来を受診する可能性)：セルフチェック実施者のうちコロナ患者 $\times 30\% +$ インフル患者



STEP ⑤

外来受診者がどの程度になるか見積もる

- STEP③の外来受診者とSTEP④の外来を受診する可能性がある者を合計する
- 地域の実情に応じて、対面診療とオンライン・電話診療の対応を検討する



新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行下の外来受診・療養の流れ（イメージ）

STEP ①

ピーク（想定）
75万人/日

+ コロナ患者 × 70% ..⑦
- インフル患者 + コロナ患者 × 30%

STEP ④

新型コロナ検査キット
でセルフチェック

新型コロナ + 0.5α万人
インフルその他、新型コロナ - 0.5α万人

健康フォローアップセンター

自宅で療養、体調変化時等にはセンターに連絡、医療機関（電話診療等含む）を紹介等

STEP ②

高齢者 9.1万人

65歳

下記以外の患者 α万人

地域の流行状況等に応じてインフル
その他の発熱性疾患の可能性 0.5α万人

例1 (中学生～64歳) × 95% (基礎疾患(+))以外の者
例2 (中学生～64歳) × 20% ..⑥

STEP ③

例1 高齢者 + 小学生以下 + 中学生～64歳のうち基礎疾患(+)
例2 高齢者 + 小学生以下 + (中学生～64歳) × 80% ..⑥

中学生～64歳
47.5万人

うち基礎疾患(+)
、妊婦 2.4万人

必要に応じ電話相談
(受診・相談センター等)

受診希望

無
有

自宅で療養
体調変化時等は
医療機関を受診

電話・オンライン診療
を受診

かかりつけ
医等を受診

治療
(※2・3)

治療
(※2・3)

外来

STEP ⑤

外来

発熱外来、かかりつけ医、
地域外来・検査センター
等を受診

新型コロナ検査
インフル検査など

※必要に応じ同時検査キットも活用

新型コロナ+
治療

インフル +
治療
(※3)

その他
症状や原因に応じた対応
※小児におけるRSウイルスなど

・自宅で療養
・救急
・入院治療
その他
・高齢者施設等に対する医療支援

必要に応じ電話相談
(受診・相談センター等)

重症化リスクの
高い患者・小学生
以下の子ども

75-α万人

小学生以下
18.4万人

小学生

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応

参考資料：データ編

- ① **新型コロナ45万人**：第7波で最も人口当たりの新規陽性者数が多かった沖縄県 (10万人当たり353人/日 7日間移動平均) と同規模の感染が全国で同時に生じた場合。
⇒ $353 \times 126,146,099 \text{人 (日本人口)} \div 100,000 = 445,296 \text{人}$ <オープンデータ>
- ② **季節性インフルエンザ30万人**：過去5年間で最大の2018/19シーズンと同規模の感染 (30万人/日) が生じた場合。
⇒ 過去5年間で最大だった2018/19シーズンのピーク週の患者数：2,035,996人/週 <NDBデータ>
⇒ $2,035,996 \text{人} \div 7 = 290,857 \text{人}$ $2,035,996 \text{人} \div 6 = 339,332 \text{人}$
- ③ **新型コロナの年齢構成**：2022/6/29～9/6での年代別新規陽性者数の年齢構成比と同様と仮定。 <オープンデータ>
⇒ 小学生(12歳)以下 1,534,035人(16.6%)、中学生 (13歳)～64歳 6,535,660人 (70.7%)、65歳以上1,180,851人 (12.8%)
- ④ **季節性インフルエンザの年齢構成**：季節性インフルエンザの2018/19シーズン (第13週まで) の年齢構成比と同様であり、10～14歳のうち10～12歳 (13～14歳) の割合は60% (40%)、60～69歳のうち60～64歳 (65～69歳) の割合は50% (50%) と仮定。
⇒ 12歳以下 36.4%、13～64歳 52.4%、65歳以上 11.2% <今冬のインフルエンザについて (2020/21シーズン)>
- ⑤ **基礎疾患を有する者の割合**：中学生 (13歳)～64歳のうち、基礎疾患を有する者の割合を5%と仮定。
- ⑥ 中学生 (13歳)～64歳 の基礎疾患を有する者以外の者のうち、**コロナ検査キットでセルフチェックを行う者の割合**
⇒ ・中学生 (13歳)～64歳の基礎疾患を有する者以外の者全員がセルフチェックを行うと仮定。(95%)
・中学生 (13歳)～64歳の基礎疾患を有する者以外の者のうち、20%がセルフチェックを行うと仮定。(20%)
- ⑦ **健康フォローアップセンターに登録する者**：セルフチェックした者のうち検査の感度を70%と仮定。
⇒ 承認されたOTCキットの臨床性能試験における陽性一致率 (PCR法との比較)：69.0%～97.3%